

---

# 僕の戦国時代

虫松

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の戦国時代

### 【Nコード】

N2896Z

### 【作者名】

虫松

### 【あらすじ】

僕はいつも通り、工場から自宅へ帰る途中に拾いものをした。鈴のついた髪留め、それを拾い上げた瞬間、僕は目眩に襲われた。普通の生活から一変、戦国時代へやって来た主人公が、軍師となり、出世していく、歴史スペクタクル、歴史は変わるのか？

## プロローグ

僕は退屈だった。つい最近、就職も決まった。小さな工場での事務作業、毎日同じ机に座り毎日同じ書類に目を通す。こんな人生、僕は望んでいたわけじゃない。彼女もいない。

趣味は、パソコン、ゲーム、はいオタクです。

歴史シミュレーションゲームが好きです。三国志とか信長の暴とかファイヤーエ レムとか  
多くの兵士を動かして、知略を巡らし、勝利する。忍者使って情報集めたり、政略結婚したり、  
裏切りさせたり、戦国時代って、毎日、命がけだったんだろうな。

今日も朝来た道をまた同じ経路で帰るはずだった。  
工事中、迂回して下さいの看板があった。

(人生迂回しまくりだな。はあー絶対出世とか関係ないよな)

迂回する道を歩くと  
チャリン!

何か蹴ったか踏んだか鈴の音がした。

(うん?何だ)

暗い夜道の中、鈴のついた髪留めを見つけた。

(何だ、落とし物か?)

僕は髪留めを拾い上げた……  
クッラ!!

(目眩が……頭が痛い!)

暫くすると元に戻った。何だったんだ今の感覚は？

(この髪留めを、かなり古いものだな、鈴は錆びて真っ黒だ)  
僕はとりあえずポケットに髪留めを入れた。

(後で交番にでも届けるか。)

「よう、久しぶり！」

突然、後ろから声をかけられた。

「おお、久しぶりこんな所で会うなんてな」  
声をかけて来たのは、同じ高校だった。三好だ。

いい大学に入っているいい会社に入って、イケメンDeath

(あー神様、何て不平等な世の中何でしょう。しかも可愛い子を横に連れ腕組みしていまーす)

「デート中なのかい」

「今どっか行こうかって話してたんだよ。この子な俺の彼女の菊川さん」

「菊川です。始めまして」

「田中です。」

僕は名前を名乗った。名乗ったじゃないな。名前を言った。

何て平凡な苗字何だろ。田んぼの中で田中だよな僕の祖先、農民に決定。

菊川さん可愛い、大和撫子、黒髪のお嬢様。

いいお家でお生まれになられたんでしょうね。

多分、時代が違えば、僕と菊川さんは顔も名前も知らずに死んでいったに違いない。

「えーと何か？」

「いいえ何でもありません。すいません」  
僕は謝った。ずっと顔を見てたらしい。

「折角会ったし一緒に飲みに行くか？」

「そ、そうだね。でもデートの邪魔じゃないか。また今度にしようか」

「今度つて、もうないんだよ。人生一度つきり。さあ飲みに行こう！」

僕は三好と菊川さんと、飲み屋へ連れてかれた。

飲んだ。楽しかった。笑った。

菊川さんの家族の話や茶道をや日本舞踊の話などした。  
菊川さんみたいな人と付き合いたい。現実には厳しく無理です。

三好のエリートサラリーマンの野望はつまらなかった。  
派閥争いとかに巻き込まれてしまえ！

そして2時間ほどして三好と菊川さんと別れた。

(は、あ一人かこれからずっと一人とかあり得るよなあ)

帰りにコンビニによりビールを買った。

(サイフ、財布と、あっ?)

チャリン！

僕はポケットに髪留めを入れていた事を忘れていた。

(帰りに交番に行くか)

髪留めを握りしめ向かいにある交番へ歩き出した。

信号を青で渡り始めていた。

その時・・・

目の前に巨大なトラックが赤信号なのに突っ込んで来た。

(ウソでしょ・・・)

僕はトラックに体が跳ね飛ばされ宙に浮いた。

チャリン！

髪留めの鈴の音が聴こえた。

.....僕は死んだのかな。

.....でも、体は痛みを感じない。

.....もしかして、意識ないのかな？

僕は稲刈りが終わった、田んぼの中央に仰向けに倒れていた。

続く



## 第一話 出会いました。

廻る回るよゝ時代は……

あの歌のフレーズが頭を巡る。バットを地面に立て頭を固定してグルグル周る

そして真っ直ぐ歩く、あのゲームみたいな感覚です。

僕はゆっくり、薄目を開けた。眩しいゝ天国かなあ？

「おい！生きてるみてーだなあ！」

僕の顔の目の前に5cmほどに真っ黒焼けた肌の男が顔を覗きこんでいた。近いよ！

「若！危のうございます！おかしな身なりをしています。変質者に違いありません！お離れ下され！」

「おい！こいつを屋敷まで連れて来い！」

「若！屋敷に入れるというのですか！無法者や暗殺者かもしれませんぞ！」

「いいから！縄で縛って連れて来い！」

そう言うと、やけ肌の、着物を着た男は立派黒い馬に乗っていつてしまった。

僕は仰向けに兵士（足軽？）みたいな人にされて縄で両腕を縛られた！

「いてえー！人権無視だあ！僕が何をしたっていうんだ！」



「交番は何処？弁護士さーん？何これ！僕は悪いことしてないよ！」

「きつさま！さっきから訳のわからない事を！さっさと立たないか！」

ガン！

僕は足軽の格好をした人に頭を蹴られた。僕は立ち上がりました。両手を後ろに縄で縛られて。

（えっ！何処ここ！周りは田圃に畑、農家だな。それにさっきの着物の男に足軽の鎧をつけて僕を縄で後ろに縛り、一緒に歩いているこの人誰？）

僕はトボトボ歩いていた。

「早く歩かないか！陽がくれてしまっぞ！」

ドン！

「いつてえー」

僕は背中をパンチされた。

（酷いよ！何この時代劇？大河ドラマ？ドッキリか何か？）

僕は空を見上げた。街灯、電柱も何も無い。

（どんだけ田舎だよ）

僕は混乱していた。そしてお屋敷についた。

お屋敷は平屋建ての住居みたいだ。門番の兵士さんが二人立っている。

「怪しいものを連れて来ました！」

（怪しいものって、あなた達は何者ですか？）

いや！待て、冷静になれ！僕は誘拐されたのかな？

そして、お屋敷の中央に連れてかれたんだ。そこには僕の人生を決める人がいました。

「ははははあああ、面白いな！そちは！」

「若！こやつはとんだほら吹き！もしくは頭のおかしい奴に違いありません！」

「いやいや！おもしれえ！何！お前の時代には4つの車輪の動く馬じゃない乗り物や空飛ぶ乗りものがあるのか！」

「こんな馬鹿げた話！聞いた事ございませんぞ！」

「馬は何処いったんだ！」

「馬は牧場とか、競馬場とかにいます」

「牧場？競馬場？よくわからんな！説明しろ！」

僕は、現代の事を若様にしゃべったんだ。ようやく理解した。僕はタイムスリップしたんだ。昔の日本だね。武士ですよ。今はなに時代かな？

「未来って奴はおもしれえなあ！お前は名は何だ！」

「田中です。」

「田中！未来人の名前は、そんな名前なのか！ふーん」

「若！早く外に放り出しましょう！」

「それで！俺はこれからどんな人生なんだ！」

「どちら様でしょうか？」

「俺か！織田 三郎 信長様だ！」

ガーーーーーん

（信長つてヤバイ人じゃないか！気に入らないとたつた斬る人じゃないの？）

## 第二話 登用されました。

僕は尾張名古屋で信長様に出会った。あ。（とある番組風に）

そして俺の人生はどうなるんだ？って聞かれています。

信長は鋭い目つきで僕を見ています。怖いよー怖い。

鳴かぬなら殺してしまえ ホトトギス 僕です。

「どこまで話せばいいんでしょう？」

（色んな事あるよ、これから大ざっぱにしか知らないけど）

「そうだな！俺様は何歳まで生きるんだ！」

「50歳まで生きていたような気が……」

「何！50歳だと！まことか！それは！」

「……（汗）」

（まずい事いっちゃった僕！口をすべらしたか……）

「つまり俺様は天下とったって事だな！」

（いや、違います。までよまでよ。色々歴史変わっちゃっし）

「そうですよね！」

「よし！田中！気にいった！俺様の占術者として召抱えよう！」

「若！こんなほら吹き嘘つきものを！」

「黙れ！文句ある奴は、前に出る！」

信長は周りにいる家臣を一喝した。

お屋敷は静まりかえった。

「僕はこれから、何をすればいいんですか？」

「俺様が困ったときに助言をすればいい！」

「つまり、ここに住めるんですか？」

「そつだ！部屋を用意させる！飯の支度をいたせ！」

僕は戦国時代の命がけの面接に通りました。

明日はどうなるのかな？

（こいつは、俺の人生を変える奴だ）

信長は、未来からきた田中こと怪しい男をにらみつけた。

### 第三話 考えました。

僕がこの時代にやて来た事には意味があるはずだ。

僕はお屋敷の天井をみながら考えた。

といつても真つ暗でも見えん。蠟燭とか高価なんだろうなあ。

信長様？雇われたんだから様でいいんだよな。

20歳として、後30年もあるなあ。何とか15年くらいで天下統一してくれないかな。

元の世界に戻る方法も考えないと、でも元の世界に戻りたいか？戻つても

たいした人生ではないな。ならこの戦国時代で出せる方法を考えた方がいいんじゃないか。

どうやって出世する。敵の大將の首をとるか、降伏させるかだよな。

まず武器と兵士の調達が必要だな。

沢山の訓練された兵士が多い方が勝つ。

シミュレーションゲームの定番である。

富国強兵！まず頭にこのスローガンが思いついた。

大日本帝国みたいだな。まずは天下統一か。

武器から考えた。鉄砲、この時代は火縄銃だよな。

沢山仕入れてもらわないと。後、足軽兵の訓練が必要だな。

次は新たな兵器が必要だな。戦車は無理でもそれに近い武器を

作ろう！ダイナマイトはないけどそれに近い武器の開発。

飛行機は無理でも上空から沢山の発車できる武器の開発。

兵士の被害を少なく相手を兵士を多く死傷させる。

田中の頭の中は陸軍、海軍、空軍を作る事を考えていた。

戦国時代の主力は足軽兵である。

鉄砲が入りにくい時代だ。上手く別の武器で応用しないと。

今この国がおかれている状況も確認しないとなあ。

確か今川義朝と斎藤道三と後誰かいたっけ？

田中は一生懸命、歴史を思い出していた。

もっと、勉強しておけばよかった。無理かあの状況では。

忍者っているのかな。経済を活性化させないと税金とれないなあ。

この時代は米が主食だよなあ。新しい食べ物なんか開発したら面白いかもしれない。

そんな事を考えているうちに眠りに落ちた。

次の日の朝、占術者、田中は信長軍の武将を紹介された。

#### 第四話 紹介されました。

こんにちワンコそば。戦国時代へとやって来て2日目です。今日は織田家に

仕える武將を紹介されました。みんな歴史で習った人物ばかり、さすが織田家

いい人材が多い。浅い知識で印象をお伝えます。

柴田勝家

いかにも戦国乱戦を戦う將軍みたいな人。筋肉流々、口髭をはやしハゲてます。

武力90つてとこかな(100が最高)

羽柴秀吉(現在は木下 藤吉郎)

信長様一のキレもの。猿って言われています。

参謀長キャラ。武力ないけど。知力で戦います。

柴田勝家さんと仲が悪いです。

滝川一益

秀吉の軍師さん。体弱そう、根気よく

何度も秀吉さんが説得して、仕官したんだって。

前田犬千代(前田慶次)

あのパチンコになった漫画の武將だね。

豪快なのかな。武力80つてとこかな。

顎われた二枚目

丹羽長秀

中間管理職のオッサンみたいな人



いい人ぽい

佐久間信盛

いぶし銀ぽい叔父様。

こうしてみると、お家を守るプロジェクトチームみたいな色んな人材が集まってるんだな。

生きるか死ぬかのデットORアライブ

僕は占術者として雇われた事を皆さんの前で紹介されました。そして僕は昨日の夜考えた。野望？戦略を提案しました。

「信長様、提案じゃなかった、進言したい事があります！」

## 第五話 進言しました。

僕は昨日の夜考えた15年で天下統一プランを信長様に話した。

「まずは訓練がそんなに必要のない武器の開発が必要かと思えます。これからは傭兵の時代、次々と入ってくる傭兵に訓練する時間はありません。」

「うむ、そちの申すとおりじゃ。してその武器は？」

「クロスボウガンの武器開発を進言します！」

「くろす？ぼうがん？」

僕は信長様にクロスボウガンの絵を描いて見せた。

クロスボウガンの洋式の弓武器でテコの原理で弓の弦をひく肩に固定して発射するのでとも命中率が良く。発射後すぐにまた次の矢をセットできる。

「この道具があれば力のないものでも弓を射る事ができます」

「では、早速、武器鍛冶屋と打ち合わせして来てくれ」

「実はまだあります。手榴弾の開発です。これは火薬の中に殺傷能力を

高める為金属の玉を入れ導線に火をつけ相手に投げつけます。隠れている相手に有効的です。」

「しりゅうだん？鉄砲の鍛冶屋と打ち合わせしてくれ！」

「最後に盾の部隊の設立を、お願いします」

僕は機動隊がよく持っている盾の絵を描いて見せた。

「多くの負傷兵を防ぐ、大きな山のような存在です。沢山の盾に守られながら前進して

いきます。分厚い鉄の盾は鉄砲の攻撃もある程度防いでくれるはず  
です。」

「田中殿は素晴らしいアイデアをお持ちではないですか！」

木下藤吉郎（秀吉）さんが拍手しながら近づいて来た。

「是非私の兵に、訓練をさせてクロスボウガンや手榴弾や盾なるもの戦いくいで使用してみたいものです。

ニコニコしている木下さんを柴田勝家さんが鬼の形相で睨みつけている。

僕はとりあえず3つにしておいた、突然多くは望めまい。

戦車や気球やハングラライダーなどの兵器は、上手くいったら進言しようと思う。

まだ、どうやって実現させるか考え中だしね。

僕は、武器の開発に向け鍛冶屋を周り説明を、また しました。

それにしても秀吉はいいタイミングで入ってくるよな。

やっぱ世渡り上手なのね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2896z/>

---

僕の戦国時代

2011年12月11日23時00分発行